

令和8年度 施策評価シート《佐賀市未来共創プラン》

政 策

03 文化・スポーツ

心豊かに夢と誇りを未来につなぐまち

文化やスポーツは、わたしたちを夢中にさせ、暮らしに潤いを与えてくれます。そして、文化やスポーツが生活の一部にあることで、それぞれの夢や誇りにつながります。

これまで培ってきた伝統に新しい風を取り入れながら、文化やスポーツを未来につないでいく。そうすることで、いつまでもワクワクがたくさんあり、心豊かに暮らせるまちを目指します。

2040年に目指す市民等の姿《総合計画》

1 市民は、する・みる・ささえるのさまざまな関わり方でスポーツを楽しんでいる。

2 市民は、歴史や風土に育まれた文化を大切にしながら、新たな文化の創造に取り組み、心豊かに暮らしている。

重点ポイント	目指す姿や重点ポイントと現状のギャップ
・自分らしくスポーツと関われること ・プロスポーツチームのホームタウンである強みを生かすこと ・市民が文化を身近に感じるとともに、新たな文化が創造されていること	・自分に合った形でスポーツに接することができる機会が十分でない。 ・プロスポーツチームや選手等との交流が不足している。 ・歴史や文化を継承する人材が不足している。

「する」「みる」「ささえる」のいずれかでスポーツに関わった市民の割合	基準値 R 5年度	目標値 R 10年度	実績値			
			R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度
	50.0%	84.0%	34.9%			

政策のゴール

100.0%

80.0%

60.0%

40.0%

20.0%

0.0%

R7年度

R8年度

R9年度

R10年度

● 34.9%

■ 84.0%

● 実績値

■ 目標値

歴史・文化活動に関わった市民の割合	基準値 R 5年度	目標値 R 10年度	実績値			
			R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度
	54.6%	75.0%	60.9%			

政策のゴール

80.0%

60.0%

40.0%

20.0%

0.0%

R7年度

R8年度

R9年度

R10年度

● 60.9%

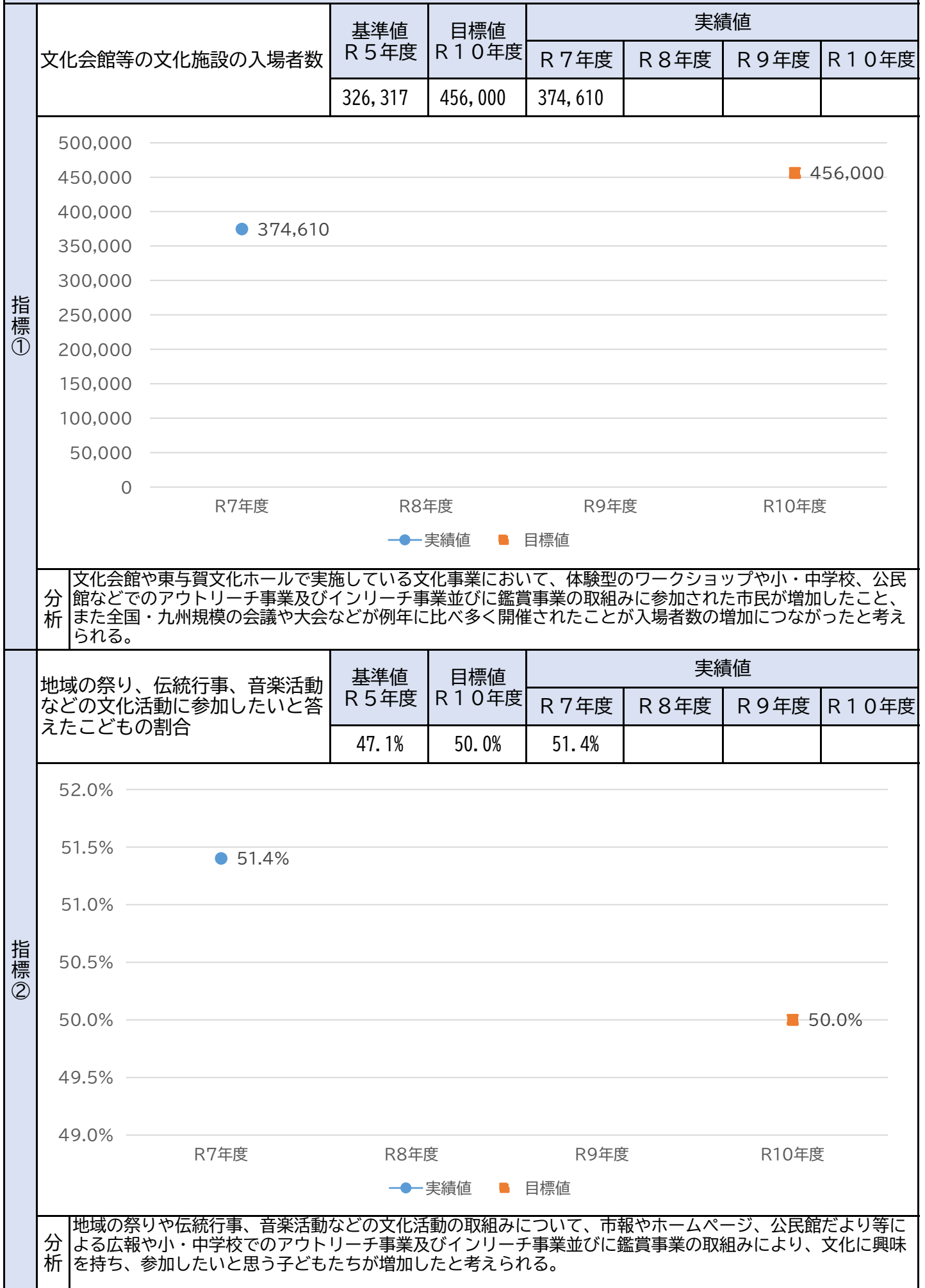
■ 75.0%

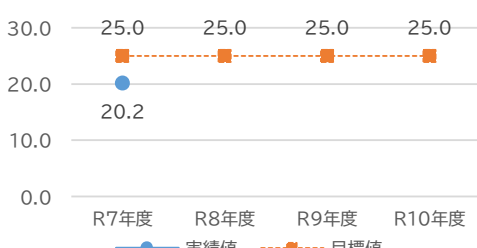
● 実績値

■ 目標値

施 策	03-2 文化を身近に感じふれあえるまち		施策統括責任課	歴史・文化課
関係課	歴史・文化課、文化財課			
重点的に取り組む施策の方向性				
・ 歴史や文化遺産など佐賀の豊富な地域資源を継承し、最新技術を活用しながらその魅力を発信します。 ・ 誰もが身近で気軽に歴史や文化芸術に親しむことができる機会や場所を充実するとともに、文化を伝える、支える人を支援し、地域の活力を高め、郷土意識や愛着を深める取組を推進します。 ・ これまで育まれてきた文化を大事にしながら、新たに多彩な文化を創造し発信する人材の育成に取り組めます。				
《総合評価》総括と今後の主な取組				
● 施策の成果指標では、「地域の祭り、伝統行事、音楽活動などの文化活動に参加したいと答えたこどもの割合（51.4%）」が目標を上回っている。一方、「文化会館等の文化施設の入場者数（374,610人）」は、令和7年度末時点で目標に未達であるが年々増加傾向にある。また、各事業の実績においては、市民芸術祭での目標達成（10,112人）や企画展への集客、出前授業の実施といった成果がある一方で、各施設を周遊する仕組み作りや文化活動団体の高齢化・後継者不足などが課題となっている。これらのことから、本施策においては、個別のイベント開催や施設整備を行うだけでなく、 「点在する歴史・文化資源や活動を連携させ、デジタル技術の活用や連続的なプログラム展開によって、市民が楽しく周遊し、継続的に学び・参加し、次世代へ継承する仕組みを構築すること」 が施策全体の共通課題である。 以上を踏まえ、今後の主な取組は次のとおりとする。 ① 若年層の参加促進と文化活動の担い手育成（参加層の拡大と次世代育成） 市民芸術祭において、若年層向けプログラムの導入やSNS広報を展開する。あわせて佐賀市文化連盟等と連携し、文化活動の魅力発信や次世代を担う若手人材の育成・確保を支援する。 ② 情報の利便性向上と「継続的な学び」への展開（情報発信と学習の仕組み化） 「さがの歴史・文化お宝帳」の確認・更新や過去の資料の計画的なデータ化など利便性の向上を図る。また、郷土学習（企画展・体験等）を「連続型の学習機会」として整理し、継続的な取組を検討する。 ③ 周遊性と滞在価値を高める歴史・文化空間の形成（エリアの連携とデジタル活用） 松原公園の整備基本計画策定・事業化を進めるとともに、周辺施設や関係団体等と連携したエリアマネジメントを実施し周遊する仕組みを構築する。また、歴史案内看板等へのQRコード設置等、デジタル技術を活用することにより、周遊を楽しめる環境を整える。 ④ 拠点の着実な整備推進と持続可能な管理体制の確立（拠点の整備と維持管理） 東名遺跡・埋蔵文化財センター整備において、工程整理と仕様精査を行い、開館に向け着実に進める。また、三重津海軍所跡では、河川敷環境に対応した適切な管理方法を整理し、整備後の活用促進を図る。				
年度別 主な取組内容				
R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	
● 公園整備に関する講演会の開催（参加者数 約140人） ● 遊具体験会の開催（参加者数 約400人） ● 歴史案内・説明看板の修繕（2箇所） ● 「さがの歴史・文化お宝帳」（アクセス数 293,242件） ● 小学校6年生を対象とした東名遺跡出前授業の実施（27校・参加者数1,771人） ● 東名遺跡出土遺物に関する企画展（参加者数19,650人） ● 東名遺跡に関する講座及びワークショップ等体験学習の実施（5回開催・参加者数213人） ● 肥前国庁に関する講座及び企画展の実施（講座4回・企画展1回・参加者数913人） ● 肥前国庁に関するワークショップ等体験学習の実施（2回・37人参加） ● 市民芸術祭の開催（3日間、入場者数10,112人）				

成果指標

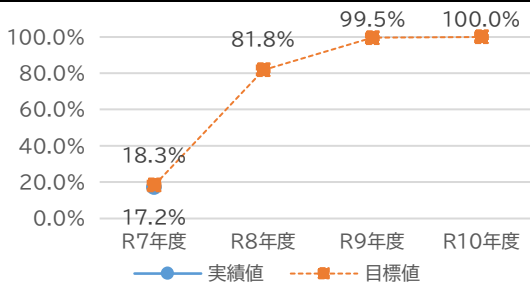


重点的に取り組む事業 ①										
松原公園周辺をはじめとする佐賀城下の歴史まちづくりの推進										
成果										
【松原公園整備事業】 松原公園整備基本計画の策定に向け、地権者や関係団体との協議・調整を進めるとともに、公園整備の基本的な方向性や役割、機能等の検討を行った。これにより、歴史・文化資源を生かした公園整備に向けた事業の具体化が図られた。 【歴史まちづくり推進費】 佐賀の城下町に設置している歴史案内・説明看板について、経年による破損や劣化が見られる箇所の修繕を行った。その結果、来訪者が歴史資源の情報を適切に取得できる環境を維持することで、佐賀城下における歴史的知識の向上と回遊性の向上につながった。										
問題点とその要因										
・松原公園周辺には、徴古館、佐嘉神社、松原神社、柳町など、市を代表する歴史資源が集積しているものの、来訪者がエリア全体を周遊する仕組みが構築されていない。その要因は、各施設・エリアでの個々の活動に留まり、連携が十分に図られていないことが考えられる。 また、借地公園として整備を検討している松原公園整備事業については、基本計画策定までには至らなかった。その要因としては、地権者等の関係者との合意に時間を要していることによる。 ・佐賀の城下町に設置している歴史案内・説明看板について、デジタル技術を活用できていない。その要因は、多くの看板はスマートフォンやQRコードが普及する以前に整備しており、デジタル活用を前提としていないことによる。										
今後の取組方針										
・令和8年度は、松原・柳町周辺について、各施設・エリアで活動している方々と連携する取組（エリアマネジメント）を実施し、エリアの価値や環境の維持・向上を図り、来訪者が気軽に楽しく回遊する仕組みを構築する。 ・松原公園整備事業は、地権者等の関係者との合意を得て、整備基本計画の策定を行う。また、公園整備の具体的な設計・事業化を進め、歴史資源を生かした滞在・交流空間の形成を推進する。 ・歴史まちづくり推進費においては、令和8年度は佐賀の城下町に設置している歴史案内・説明看板等に、QRコードを設置し、それをスマートフォン等で読み込むことで、その場所の過去の風景や歴史情報を表示できる機能を追加し、現在と過去を比較しながらまち歩きを楽しめる仕組みを構築する。										
主な重点取組事業										
1	事業名		松原公園整備事業							
	担当課		歴史・文化課		事業期間	令和 3 年度 ～ 令和 年度				
	事業概要・目的		佐賀藩鍋島家に伝わる歴史資料を所蔵する徴古館や佐賀藩主などを祀る松原神社・佐嘉神社を中心とした地区の歴史的趣きを活かしながら、市民のための公園として、松原公園（借地公園）を拡張整備する。							
	該当年度取組実績		公園整備に関する講演会開催 1回（参加者 約140人） 関係者会議の実施 3回 遊具体験会の開催 1回（参加者 約400人）							
	成果	指標	過去1年間の間に、歴史関連のイベント等に参加・活動した人の割合			単位	%			
		年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		目標値	25.0	25.0	25.0	25.0				
		実績値	20.2							
		達成状況	達成できていない							
	決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		総事業費	234千円							
		うち市費	234千円							
		（※職員人件費は含まない）（千円）								

整備基本
構想模型



整備基本
構想模型

重点的に取り組む事業 ②										
東名遺跡・三重津海軍所跡等の歴史・文化遺産の調査・整備・利活用の推進										
成果										
【東名遺跡・埋蔵文化財センター整備事業】 ・造成、建築、屋内展示制作を進め、令和10年秋の開館に向けて、出土資料を保存・公開し、市民や来訪者が実物を見て学べる拠点の整備を進めた。 【三重津海軍所跡整備事業】 ・屋外展示整備工事を実施し、来訪者が遺構の位置や歴史的価値を現地で理解しやすい見学環境の整備を進めた。										
問題点とその要因										
【東名遺跡・埋蔵文化財センター整備事業】 ・開館前のため、市民、来訪者が出土資料を見たり体験・学習したりする機会が限られている。 ・建築と展示制作を並行する中で、資材費や人件費の高騰、調達環境の変化が整備の工程、開館時期に影響する可能性がある。 【三重津海軍所跡整備事業】 ・整備後も市民・来訪者が安全・快適に見学し、解説を継続利用できる状態を確保する必要がある。 ・整備地は、河川敷に位置し、草木の繁茂、河川の増水などへの対応、設備点検、解説更新など継続的な管理が必要となる。										
今後の取組方針										
【東名遺跡・埋蔵文化財センター整備事業】 ・展示、体験、学校利用等の公開内容と工程を整理し、資材費等の外部環境が変化しても施設の基本的な機能と開館目標時期の確保を目指す。 【三重津海軍所跡整備事業】 ・整備後の安全かつ快適な見学環境を維持するための、草刈りや増水時対応等の管理項目の整理と、関係部署間の連携・責任体制の明確化による確実な運用体制を構築する。										
主な重点取組事業										
1	事業名		東名遺跡・埋蔵文化財センター整備事業							
	担当課		文化財課		事業期間		平成 30 年度 ～ 令和 10 年度			
	事業概要・目的		東名遺跡や市内遺跡から出土した埋蔵文化財の保存・整理・研究・公開を一体的に行うため、収蔵・調査研究・展示・体験学習機能を備えたガイダンス・埋蔵文化財センターを整備し、文化財の保護と活用を通じた教育・地域振興の推進を図るもの。							
	該当年度取組実績		・東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター敷地造成工事 ・東名遺跡屋外展示実施設計業務委託 ・東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター屋内展示制作業務委託 ・東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター新築工事（継続費） ・東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター新築工事監理業務							
	成果	指標	事業の進捗率			単位	%			
		年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		目標値	18.3%	81.8%	99.5%	100.0%				
		実績値	17.2%							
		達成状況	概ね達成している							
	決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		総事業費	227,708千円							
		うち市費	31,488千円							
(※職員人件費は含まない) (千円)										

重点的に取り組む事業 ③										
歴史資料等のデジタル化										
成果										
指定文化財や市内の文化財情報を発信しているホームページ「さかの歴史・文化お宝帳」の適正管理に努めた。令和7年度は、290,000件の目標に対し293,242件の総アクセス数となった。										
問題点とその要因										
・「さかの歴史・文化お宝帳」は、市が収集・整理した情報と地域から寄せられた情報が混在しており、内容の精度や信頼性に差がある。 ・文化財要覧としての利活用等を目指しているが、印刷フォームの機能が十分でないなど、市民や地域が必要な情報を使いやすい形で提供できていない。 ・過去報告書等の資料のデータ化も、資料量や形式の違い、内容確認等に時間を要しており、検索・閲覧や地域での共有に十分活用できていない。										
今後の取組方針										
・掲載情報の確認・更新ルールを整え、内容の精度と信頼性の向上を図る。 ・印刷・一覧表示など利用者が使いやすい機能を段階的に整備し、要覧や地域学習等に活用できる環境を整え、市民への還元を図る。 ・過去の報告書、写真、関連資料等については、重要度や利用ニーズ等を踏まえて優先順位を定めるなど、計画的にデータ化を進める。										
主な重点取組事業										
1	事業名		文化財等保存管理経費							
	担当課		文化財課		事業期間		昭和 41 年度 ～ 令和 年度			
	事業概要・目的		文化財を保存・管理・活用することにより、市民への公開等を図る。 指定文化財情報を中心とした文化財情報発信ツールとして「さかの歴史・文化お宝帳」を運営している。							
	該当年度取組実績		「さかの歴史・文化お宝帳」掲載写真の追加・更新、掲載文章の修正等を適宜行い、情報精度を高めた。また、内部情報として、掲載写真の情報を管理できるようシステム改修を行った。							
	成果	指標	「さかの歴史・文化お宝帳」アクセス数			単位	件			
		年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		目標値	290,000	293,000	294,000	295,000				
		実績値	293,242							
		達成状況	達成している							
	決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		総事業費	10,238千円							
		うち市費	8,683千円							
		(※職員人件費は含まない) (千円)								

重点的に取り組む事業 ④

こどもの好奇心や知的探求心を高める郷土学習の推進

成果	
----	--

【市内遺跡公開活用事業】

- ・小学校6年生を対象とした東名遺跡出前授業を27校で実施し、1,771人に学習機会を提供した。
- ・東名遺跡の企画展、体験学習、肥前国庁の講座・企画展等を計9事業実施し、延べ22,584人が参加した。
- ・展示・授業・体験を通じて、東名遺跡や肥前国庁の歴史に触れる機会を、児童生徒から市民まで広げた。

問題点とその要因

【市内遺跡公開活用事業】

- ・イベント等の参加者数は22,584人で、目標32,000人の70.6%（9,416人未達）にとどまった。
- ・参加者の約91%（20,501人）が企画展に集中している。出前授業、体験学習、講座等は計2,083人（約9%）となっており、施設への来館や再訪につながる体験、講座等の選択肢が限られていることが要因と考えられる。

今後の取組方針

【市内遺跡公開活用事業】

- ・企画展、講座、体験学習等を、参加後の来館、再訪や次の学習につながる連続型の学習機会として整理する。
- ・各事業で次回イベントや施設の案内を分かりやすく示し、学校・地域団体と連携して、親子や若年層を含む市民が参加しやすい日時・内容を設定する。
- ・参加者数に加え、初回・再参加者の割合、満足度、再訪意向等を把握し、その結果を事業内容や開催方法の見直しに反映する。

主な重点取組事業

事業名

市内遺跡公開活用事業

担当課

文化財課

事業期間

平成 24 年度 ~ 令和 年度

事業概要・目的

発掘調査で得られた資料を広く市民に公開活用するため、展示解説や体験学習・講演会などを開催する。主に東名遺跡をとりあげ、全国的に見ても大変貴重であるこの遺跡の重要性を市民に周知する。市内の小学校で東名出土遺物の展示や出前授業を行い、遺跡についての理解を深める。
また、肥前国庁跡の更なる活用を図るため、国庁に関連した講座、企画展を行う。

該当年度取組実績

- ・ 小学校での出前授業
- ・ 東名遺跡や出土遺物に関連した企画展、体験学習
- ・ 東名遺跡、縄文時代に関連する講座
- ・ 肥前国庁講座及び企画展

1

成果

指標

イベントへの参加者数

単位

人

年度

R 7年度

R 8年度

R 9年度

R 10年度

目標値

32,000

32,500

33,000

33,500

実績値

22,584

達成状況

達成できていない

決算額

年度

R 7年度

R 8年度

R 9年度

R 10年度

総事業費

1,977千円

うち市費

594千円

(※職員人件費は含まない) (千円)

35,000

32,000

32,500

33,000

33,500

30,000

25,000

20,000

22,584

R7年度

R8年度

R9年度

R10年度

実績値

目標値

重点的に取り組む事業 ⑤

市民芸術祭や文化活動等への支援

成果	
----	--

・令和7年度の市民芸術祭は、入場者数が10,112人で目標値10,000人を達成し、市民が日常生活の中で気軽に芸術に親しめる機会の提供や文化活動の発表・交流の場を創出することができた。参加者アンケートでは、93.7%が「とても良かった」「良かった」と高い満足度が得られた。

・新しい取組として実施した、海上自衛隊佐世保音楽隊コンサートや佐賀県警察音楽隊コンサートにおいては新規参加者の獲得に繋がった。

・文化活動等への支援は、佐賀市文化連盟の活動への支援を通じて、加盟する172団体の活動環境を維持し、その結果、市民への文化芸術に接する機会を提供することができた。

問題点とその要因

・市民芸術祭は、参加者数を維持・拡大するためのリピーター定着や効率的な集客手法が不足している。その要因として、プログラムの新規性不足や情報発信の単発化、ターゲット層（若年層や子育て世代）と媒体のミスマッチ等が考えられる。

・佐賀市文化連盟加入団体の中には、後継者の不足している団体もある。その要因としては、長年活動を支えてきた会員の高齢化や若年層の文化活動の多様化及び活動の認知不足などが考えられる。

今後の取組方針

・従来の質の高い芸術の鑑賞プログラムに加え、若年層や新しい層をターゲットにしたプログラムを導入する。また、若い世代のチャレンジの場として、西側広場やロビー等を活用し、気軽に文化芸術に触れる、体験することができるプログラムを実施する。また、若年層が利用するSNS媒体を活用し、ターゲットを絞った芸術祭の広報活動を実施する。

・文化芸術活動が将来にわたり持続可能であるためには、新たな担い手の育成・確保が重要である。このため、文化連盟と連携しながら、学校や地域、企業等との協働による文化芸術の体験機会の充実を図るとともに、市報やホームページ、SNS等を活用し、文化連盟の活動情報を発信することで、新たな担い手の獲得に繋げる。

主な重点取組事業

1

事業名		市民芸術祭開催事業					
担当課		歴史・文化課		事業期間	平成 25 年度 ～ 令和 年度		
事業概要・目的		文化会館全館及び西側広場を使用して、佐賀市内で活躍する文化芸術団体によるコンサートや展覧会、ワークショップ等のイベントを開催する。企画及び運営は、芸術関係者と文化施設関係者（佐賀市文化振興財団）、佐賀市の担当で構成する佐賀市民芸術祭実行委員会が行う。					
該当年度取組実績		・ 第13回佐賀市民芸術祭 令和7年11月7日～9日開催 来場者数 10,112人 ・ 佐賀市民芸術祭実行委員会 計9回開催。					
成果	指標	来場者数			単位	人	
	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度		
	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000		
	実績値	10,112					
	達成状況	達成している					
決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度		
	総事業費	11,400千円					
	うち市費	11,400千円					
	(※職員人件費は含まない) (千円)						

10,150

10,100

10,050

10,000

9,950

9,900

10,112

10,000

10,000

10,000

10,000

R7年度

R8年度

R9年度

R10年度

実績値

目標値

